

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4371200074
法人名	社会福祉法人 姫戸福祉会
事業所名	グループホーム ひめど
訪問調査日	平成 21 年 8 月 28 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 2009年9月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4371200074
法人名	社会福祉法人 姫戸福祉会
事業所名	グループホーム ひめど
所在地 (電話番号)	熊本県上天草市姫戸町姫浦2544-6 (電話) 0969-58-3610

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成21年8月28日

【情報提供票より】(平成21年 8月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.3人	

(2)建物概要

建物形態	単独		
建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建て	2 階	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	3 名	要介護2	1 名			
要介護3	3 名	要介護4	2 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	89.2 歳	最低	82 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	姫戸医院、上天草総合病院、竹中歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅、小学校、商店などの集まった中心街にある医院の2階にあるホームで、家庭的な生活が営まれている。当初の事業所の理念「助け愛 励まし愛 微笑み愛」に加え「家庭的な雰囲気、馴染みの人間関係、住み慣れた地域での生活の維持を大事にしています。そして何より役割を持って生活を送ることで、自信を取り戻し、自分らしい自立した暮らしが送れるよう、寄り添ったサポートを心がけています。」という思いを実践し、穏やかな暮らしが展開されていた。近隣の喫茶店に行ったり、季節の花やホテルを見に行ったり、らっきょうを漬けたり、プランターのイチゴやゴーヤを収穫したり、多様な場面設定の中で思いを汲み取り、「今」の表情を引き出す工夫が見受けられた。接遇研修により、洗面所やトイレが清潔に保たれることは衛生管理に繋がり、職員がきちんと休憩時間を取ることで質の高いケアが持続されている。階下の協力医との医療面の連携は密接で、入居者・家族の安心に繋がっており、安心・安全の生活が提供されていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
		外部評価結果は月1回のミーティングで検討し、評価項目や評価結果を、事業計画に反映するなど、真摯に受け止め取り組んでいる。前回の提案された課題である外出支援については、事業計画に掲げ、業務の見直しを行い外出支援を行い易くするなど、職員全員で改善に向けた取り組みがみられた。
重点項目	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
		① 毎年、全員で全項目の評価に取り組んでおり、「グループホームのあり方や求められるものの理解を深めるための研修」と捉えて、前向きに受け止め取り組んでいる。全員で取り組み、課題を具体化することで、モチベーションを上げ、上司や同僚への理解も深まっていると思われた。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
		運営推進会議は、老人会長、民生委員長、婦人会長、行政、入居者、家族代表、法人施設長等の参加を得て、2ヶ月に1回、ホームのリビングで開催されている。ホームの活動状況や入居者の状況などを説明し、連携・協力依頼を行うなど有効に機能している。老人会や婦人会との協力関係も構築されており、今後、母体法人にある地域包括支援センターとの連携や、認知症キャラバンメイトの活動等を通して、地域の認知症支援の情報発信源となる有意義な活用が期待できる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
		家族の訪問時や行事の際に、積極的にコミュニケーションを図り、気さくな家族との信頼関係が築かれている。入居者の暮らしぶりを捉えた写真が満載の広報誌で生活の様子を家族に伝えると共に、状況変化時は電話で早めの報告を心がけ、意見や要望を汲み取り、サービスに反映する努力が行われている。家族アンケートには安心と感謝の言葉が多数見られ、満足度が高いことが伺える。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
		老人会の定期的な訪問や、小学校・保育園との交流を積極的に実施しており、「ばーちゃんは誰ね?」「あーあその孫ね」と地域ならではの交流が行われている。自ら市の「町づくりボランティア」に加盟し菜種づくりに参加するなど、地域で支え合う関係作りへの意欲も高く、今後も地域での活躍が期待される。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「助け愛 励まし愛 微笑み愛」という事業所の理念に、H20年にスタッフ全員で話し合い『馴染みの人間関係、住み慣れた地域での継続を大事に』という内容を加え、地域に根ざし、地域密着型サービスとしての役割を踏まえた理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員の思いを含めてつくりあげた理念であるため、理念の共有意識は高く、職員は、理念に沿ったケアを心がけている。理念の実践に向けて、今年度は外出を多くするという具体的な目標を掲げ、具体的な実行が行われている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広報誌「ひだまり通信」を地域に配布し、散歩や外出時に気軽に挨拶を交わし、小学校や保育園にも積極的に出かけて世代を超えた交流を心がけている。ボランティアに来てもらうためには、まず、自分たちがボランティアをと、地域の『なたねづくり』に参加し、社会貢献を行い、個人所有の菖蒲園に「見に来んね〜！」と誘われるなど、厚い地域交流と繋がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は勉強の一貫としてとらえ、全項目を全員で取り組むことで、グループホームのあり方や求められるものの理解が深まると認識しており、意識の高さが伺える。外部評価結果は月1回のミーティングで検討し、改善や事業計画に反映するなど、真摯に受け止め取り組むことで、職員のやる気と家族の理解や信頼を得ている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、老人会長、民生委員会、婦人会長、行政、入居者、家族代表、法人施設長等の参加を得て、ホームのリビングで開催されている。ホームからの報告の他、外出先の情報交換や、老人会や婦人会との連携・理解を深める機会となっている。家族は全員に案内し各回2~3家族が参加しており、出席した入居者から「協議することで皆が成長していくとよ」との発言があったりと、有意義な会議となっていることが伺われる。	○	消防署、警察、学校、郵便局、社協職員などテーマごとに多彩な参加を得ることで、多くの意見・情報交換も可能になり、幅広く現実的な理解を深めることも可能と考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は、地域の支所に配属の頃からの顔見知りであり、研修内容を共に考え一緒に講師依頼に出向くなど協力的で、情報交換や質問等を気軽に行える関係が構築されている。また、関係課以外の部署との情報交換や連携を働きかけることで、行事やお出かけの情報が得られるなど、より一層のサービスの質の向上に繋がると思われる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に生活の様子や健康状態などを随時報告している。遠方の家族には2ヶ月毎に発行している広報誌「ひだまり通信」を送り、「本人の表情がよくなっていることが見て取れてありがたい」との感想などを得ている。状況変化時は早めの報告を電話で行うなど、細やかにコミュニケーションを図り、家族の協力と安心、信頼に繋がっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	他の入居者・家族同志の交流もあり、職員とも遠慮なく意見が言える良好な関係が構築されている。年に2回の家族の集いや敬老会など、家族参加行事の際に意見や要望を聞く機会を設けると共に、日頃から積極的にコミュニケーションを図り家族の意見や要望をくみ取る努力が行われている。	○	家族のみでの懇談の時間を設けることで、出された意見や提案を「家族会の意見」として報告してもらい、家族の不安や悩みの共有ができると思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間で2人の異動があったが、馴染みの関係の重要性を認識し、日勤で十分に関係構築が出来てから夜勤を入れていくなど、職員の不安感に十分な配慮を行い、入居者の不安や混乱を回避する心がけが見られた。異動した職員も、母体法人の夏祭りへの参加や相互に遊びに行くなど交流を心がけ、ダメージを防ぐ配慮もみられた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに、取りたい資格や受けたい研修等を聞き取り、自己研鑽の動機づけとしている。外部の研修会にも出張で参加できるよう配慮があり、資格取得のための助成、必要図書を購入など、事業所のバックアップ体制も整っており、意欲の向上と前向きなケアへの取り組みが支援されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上天草居宅介護サービス事業所連絡協議会のメンバーとして、年に3回の研修と、年に数回の事例検討会に出席しており、情報交換と学びの機会となっている。法人内での勉強会やネットワークも質の向上への意欲に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの見学を実施し、リビングや居室を見て納得してもらうよう心がけている。空室が複数ある場合は、自分で選んでもらうこともある。入居に際しては、生活歴やライフスタイルを聴き取り、これまでの生活や環境が継続できるように配慮されている。また、入居後は家族に頻回な訪問を依頼し、頻りに自宅に帰るなど、気持ちに添ったケアを行い、職員との信頼関係作りを努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	盛りつけの際に量を調節し残飯を少なくする工夫をし、「もったいない」の精神を発揮している。らっきょうの漬け方、お正月やお盆などの由来やしきたりなど入居者から学び、共に暮らしのアクセントとしている。入居者は、来訪者に「よくしてもらっとる」と職員をかばう心配りもあり、職員は、入居者の笑顔や「ありがとう」などの声掛けが、癒しとやる気に繋がっているとの認識で、共に楽しみ支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の何気ない会話や表情、動作などから思いを推察し希望に添う対応が行われており、さらに、入居者同志の会話などから本音を汲み取る細やかな配慮も見られた。また、生活歴を基本に、家族・病院・施設からの聴き取りや、面会者の話等から本人の現状と、気付きを記録に残して共有する努力がみられた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	主治医や看護師・本人・家族・担当職員から情報収集し、それぞれの希望や意見を反映し介護計画を作成している。外出や帰宅支援などは、希望と家族の現状等を考慮して、無理なく実現できる様に調整している。アセスメントは職員全員が回覧し、月1回のフロー会議で話し合い、全職員で統一したケアを行うよう立案している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プラン作成担当者は、支援経過記録から必要な情報を集め、毎月評価を実施すると共に、心身の状態に変化が見られた際には、随時見直しが行われている。健康管理は医師との連携で、迅速なケア対応ができる体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人施設の機能を幅広く活用できる体制があり、施設のデイサービスに遊びに行き地域のひととの交流を楽しむことができている。また、施設の大型車を借りてお花見やドライブに出かける等、柔軟な外出支援が行われている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	階下が協力医療機関で、医院長宅が隣接しており、往診や看護師の協力、受診の際の負担軽減等、柔軟で密接な連携が図られている。他のかかりつけ医への受診も、家族が同行できない場合は職員が付き添い、受診後はその日のうちに家族に報告し、家族・かかりつけ医との信頼関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の看取りに関する研修に参加する等、尊厳を大切にという意識が高く、本人・家族の意向はプラン変更時に確認し、意向を重視した支援に取り組む姿勢が伺えた。母体施設と階下の協力医との連携を強化することで、看護職の居ない不安を軽減するよう努めている。	○	ホームのケア内容と限界などについて具体的に明文化し、現在の入居者の状態にかかわらず、家族への説明が行われることを期待する。また、職員の精神的負担も大きいと考えられるため、重度化した際の支援体制やスタッフ研修の実施など、職員の意識・心構えを統一されていくことが望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年に2回接遇トレーナーの研修が行われている。基本的なマナー、尊敬や思いやりの心、書類の扱い方までも細かく具体的な研修が行われ、実践に結びついている様子が見受けられた。面会簿は入居者ごとの個別台帳となっており、各種記録は端末で入力し管理ソフトで処理するなど、効率化とプライバシー保持や個人情報保護に関して配慮されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムを把握し、個々のペースに合わせた生活が尊重されている。居室で静かに過ごしたり、リビングで好きなテレビ番組を楽しむなど、思い思いに1日を過ごされている。外出や散歩の希望には柔軟に対応する姿勢があり、本人の希望を優先するために、家族に協力依頼することもあり、連携が構築されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の興味や能力に応じて、料理の下ごしらえ、調味や後片づけなどを一緒に行っている。毎食、ランチョンマットを広げ、時にはセルフサービスのサンドイッチや、ホットプレートでどら焼きを焼くなど、目先を変え食欲が湧くように工夫がされていた。また、マグカップやスプーンの大きさなど、状態や負担感に応じての配慮が見られた。誕生日は好きなものでメニューを揃え、冬至にはカボチャ、節分には巻きずし、団子汁の団子は男性入居者に打ってもらうなど、行事と楽しみ、能力発揮が食事を通して支援されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は特に設けておらず、入居者の希望と状況を見ながら柔軟な対応が行われている。菖蒲湯やゆず湯、各種入浴剤でバリエーション豊かに、入浴が楽しめる工夫がある。入浴に気が進まない入居者も、仲の良い入居者に誘われて2人一緒に入浴することもあり、スムーズな入浴支援が実施されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の下ごしらえや洗濯物の干し・たたみなどは入居者の役割となっている。趣味を把握し、絵や習字、生け花など楽しみや生きがいを感じてもらう支援が行われている。毎日何を行ったかのチェック表を参考に、天候や表情により、買い物や散歩、ドライブ等への働きかけなど気配りのある支援がみられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年度の事業計画にも外出支援を盛り込んでおり、希望に添った外出支援への体制作りが実施されている。出身地区の行事や運動会、お祭り、季節の花見や日帰り帰省、神社へのお参り、納骨堂など希望に合わせ様々な外出の機会も作られている。職員の家族とともにホテル見学に夜間外出するなど多様な支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は全ての出入りを施錠せず、職員が所在確認を行い、階段への出入り口にはセンサーで鳴るチャイムを活用することで、危険を回避している。現在、無断で出かける入居者はいないが、階下の医院が休診の日のみ、家族の希望で防犯のため玄関は施錠している。階下の医院の職員や近隣の商店などとの協力連携もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回の避難誘導訓練、消化器訓練を実施している。建物外部の非常階段はリビングに繋がっており、建物内部の階段と共に避難しやすい造りになっている。男性職員は地元消防団に所属しており、地域の協力、法人の迅速な支援も期待できる。	○	同建物に医院があることもあり、風水害・地震時の地域の避難拠点、心の拠り所となることを期待する。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事・水分摂取量を記録管理システムに入力し、職員が情報の共有をしている。食事や水分摂取が少ない入居者は「食事摂取注意者」として、システムが判断し特記されるようになっている。入居者によっては、居室に水筒を用意したり、拒食傾向にある入居者には食事時の声掛けを配慮するなど、細やかな健康管理が行われている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	医院の2階であるため無機質で冷たい感じのする造りをカバーするため、階段や廊下には絵や植物を、廊下の壁には入居者の笑顔あふれる写真をたくさん飾るなど、温かみのある生活の場になるような工夫が見られた。医院の待合室からの吹き抜け部分はガラスで覆い、採光は保ったまま足元をスリガラスにし安全性を確保しており、ソファが置かれ、のんびり過ごせる明るい1角となっていた。日当たりのよい食堂とテレビのあるリビング空間がゆっくりと過ごす居場所となっており、洗濯物をたたんだり、テレビを観たりする穏やかな生活感のある空間になっている。冷房の体感温度に注意しながら換気も配慮され、居心地の良い共用空間づくりが整えられていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・調度品を持ち込み、家族写真や思い出の品、テレビ・カセットデッキ・お人形等が置かれ、収納の仕方も個々の好みや状態に合わせた部屋作りとなっている。家族からのプレゼントの花かごやぬいぐるみをドアの目印にしている部屋も見受けられた。入居者の症状によってはの制限もあるとは思われるが、やや寒々とした部屋も見受けられた。安全に配慮しつつも、馴染みのものや好きなものを本人と共に飾るなど、本人・家族と協力した温かみを感じられるような部屋づくりの工夫も必要と考える。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームひめど
所在地 (県・市町村名)	熊本県上天草市姫戸町姫浦2544-6
記入者名 (管理者)	出口清美
記入日	平成 21年 8 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人基本理念「住み慣れた地域の中で、今までの人間関係を保ちながら老後を過ごしていただく」を柱に、「たすけ愛、励まし愛、微笑み愛」を大きな理念とし、具体的に「一、地域に出かけ、地域の方々とかかわりを持ちながら、家にいる時と同じように、生き生きと暮らすことができるような、グループホームでありたいと思います。一、ゆっくりのんびり、いつも笑い声が聞こえる、グループホームでありたいと思います」を掲げている。</p>	
<input type="checkbox"/>	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員全員が無記名で理念を書き出し、その思いが全て入るような理念にするため、さらに話し合いをし理念を作り上げた。</p>	
<input type="checkbox"/>	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居者様や訪れた方が目に付きやすいような場所に理念を掲示している。また、家族会や運営推進会議などで理念について説明している。</p>	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>通勤途中や外出時には地域の方と挨拶することを心掛け、また、広報誌を地域に配ったりし、きっかけ作りをしている。老人会の訪問は定期的なものとなっている。</p>	
<input type="checkbox"/>	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>年一回の法人をあげての夏祭りには、地域の方々を始め、ボランティアの方々などに来ていただいて交流している。また、町づくりボランティアへ入居者様と参加したり、小学校や保育園へ出かけたり交流に努めている。</p>	<p>○ 今後も積極的に地域交流を続けていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>老人会の会合に参加し、グループホームについての話をしたり、地域の方から相談があったりしている。</p>	○	<p>グループホームとして何ができるのか考え取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価項目や評価結果について、事業計画に反映し取り組むようにしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で頂いた意見はミーティングなどで検討し全職員に周知し、改善経過を次の運営推進会議で報告するようになっている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>職員の研修会内容について、市の職員と一緒に考え実施している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>年間の研修会予定に入れ、学ぶようにしている。また、必要な方がいないかの検討も、ミーティングで行うようにしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年間の研修会予定に入れ学ぶようにしている。また、朝礼で「職員倫理規定に基づく行動指針」等を読み上げ虐待防止に努めている。高齢者虐待を発見した場合は報告する義務が生じることも周知徹底している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の時間を十分にとるようにし、途中、疑問点がないか、確認しながら理解と納得をしていただけるように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者の方に参加していただき、意見を聞くようにしている。また、日頃から、入居者の方の意見や思いが言いやすいような雰囲気作りや、何気ない一言を聞き逃さないように努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	二ヶ月毎に発行しているグループホームの広報誌や面会時に伝えるようにしている。また、必要に応じて随時電話連絡している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の集いなどで、意見や要望などを聞く機会を設けている。頂いた、意見・要望などはミーティングで話し合い改善・周知を図っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの中で改善の為の意見や要望を聞くようにしている。その中で解決できなかったものについては、法人全体の主任者会議で提案するようにしている。また、年二回個人面接を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	パート職員2名採用し、また、勤務時間の見直しなども行い、柔軟な対応ができるように努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や新人職員の採用時にも、入居者の方きちんと紹介を行っている。また、異動後も交流などで会える機会を作っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	取りたい資格や、受けた研修等を個人毎に聞き取り、それに合わせた研修会の参加や必要図書購入等のバックアップを行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上天草居宅介護サービス事業所連絡協議会の会員となり、その研修会や交流会への参加ができています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務時間内の休憩時間の確保や休憩場所の確保を行っている。また、福利厚生として「ソウェルクラブ」に加入し、心身のリフレッシュが図れるようにしたり、職員同士の交流会を行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事委員会の設置や人事考課制度を導入している。また、資格取得に向けた支援を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があったときには、必ず本人に面会し、心身の状態や思いを聴き、入居後の生活に反映できるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話を聞く時間をゆっくり設け、家族の思いや今までのかかわりなどを理解するように努め、信頼関係が築けるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容や状況に応じた対応やサービスの説明・紹介を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の施設見学で、雰囲気を見ていただき、事業所の説明を行い入居していただいている。やむを得ずすぐに入居となった時には、ご家族やかかわりのあった方にきていただくなどして安心感を持って頂くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、料理や家事、地域の行事等を教えていただいたり、昔の出来事を話してくださったりがある。また、「あんた達が大変だけん何なっと手伝おうか」と言ってくださり、洗濯物たたみや野菜の下ごしらえなどをしてくださり、支えていただいている部分がある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は誕生会、夏祭り、敬老会などの行事への参加や、体調が思わしくない時の受診付き添い、外泊など一緒に過ごす時間を作っておられ協力して頂く機会が多くなっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の様子や健康状態などを、面会時や電話などで報告し、行事への参加や介護にもご家族が関わられる機会作りをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室を利用したり、知人宅に遊びに行ったり、交流が途切れないようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士の関係性について職員同士が情報を共有しており、一日の中で一番多く過ごされるリビングでの配慮を欠かさないようにしている。そのため、入居者様同士で協力して洗濯物を干したり、ソファでおしゃべりしたり、のんびり昼寝をされている様子などが見受けられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後もご家族から声を掛けていただいたり、他の施設へ移られた方からも手紙を頂いたり、面会に伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の何気ない会話や動作、表情から思いを推し量ったり、話を聞いて確認したりしている。また、ご家族からの話などから情報を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りや、面会時の親戚・知人の方の話から把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事や睡眠、排泄の時間、生活習慣など個人の生活リズムを尊重し、心身の状態についても職員間で連絡ノートなどを用い把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人とは日頃のかかわりの中で、ご家族とは面会時や電話などで、思いや意見を聞き反映させるようにしている。また、月一回の職員ミーティングでは、職員からの意見や情報を出し合い反映させるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリング以外にも、変化があった場合には、ご本人、ご家族の要望に応じて見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録システムの改善を行い、個別に情報が共有しやすく工夫し、また、重要な事に関しても、すぐに関覧できるようにしており、必要に応じて介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設と連携しながら、ご本人、ご家族のその時々々の状態に応じた対応に心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域とのかかわりが途絶えないように、老人会、婦人会、小学校、ボランティアへの協力を呼びかけたり、地域に出かける機会を設けたりしている。また、地域の消防署や消防団とも防災については協力している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理・美容サービスなどは、必要に応じてきていただき、利用してもらっている。他のサービス利用についても、要望があれば支援できる体制を取っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、協力できる体制は築けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が、同建物の1階にあり、定期的受診や緊急時の診察などができている。また、ご本人・ご家族の希望に応じ、他の医療機関への通院もご家族と協力しながら行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	助言を頂いたり、状態について相談したりができる医療機関がある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同建物内の医療機関の看護師や同法人の看護師と連携を図っている。	○	今後は、日常的な健康管理を行ったり、医療ニーズが必要となった場合に適切な対応が取れる等の体制を整備し医療連携体制加算を算定していく事を検討している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、お見舞にいたり、ご家族や医療機関と情報交換を行ったりし、状況を把握しながら、退院支援を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化があるごとに、ご本人、ご家族、かかりつけ医と話し合いを積み重ね、気持ちの変化や思いに注意しながら、方針や支援の具体的内容について納得し安心していただけるように心掛けている。	○	母体施設とも連携をしながら、本人・ご家族の意向を汲み取った看取り支援を行っていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族や関係者と話し合いながら、ご本人が安心して日々を過ごしていただけるよう取り組むようにしている。急変した場合は、すぐに対応できるよう医療機関とも密に連携を図っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前にご本人、ご家族と共に一緒に下見に出かけたり、関係者から話を聞ける機会を設けたりし、不安の解消に努めるようにした。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年間を通じて接遇改善活動に取り組み、年二回講師を招いての研修会を実施し、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。また、個人情報の取り扱いについても、個人情報保護法や法人の個人情報の取り扱い指針などを勉強しプライバシーの保護に努めている。	○ 今後も年間計画に基づき接遇改善に取り組んでいく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	聞き取りやすい、解りやすい会話に心がけるようにしている。また、日常生活の中でも、ご本人が選択する場面を作るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩、ドライブ又は、部屋でゆっくり過ごしたいなど本人の思いや状態に応じて対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	誕生会、敬老会、外出などには洋服を選んで着たり、お化粧したりし、また、行きつけの理美容室を利用し、その人らしいおしゃれに努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は大まかに作成しているが、日常の会話の中から食べたいものを作ったり、特にだご汁などの郷土料理は作っていただいたりしている。また、季節の山菜などの下ごしらえをしていただいたり、日常的に調理の下ごしらえをして頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物に出かけ食べたいものを買ってこられたりする。飲酒や喫煙など希望に応じて支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄用品の見直しを行ったり、排泄パターンを把握して誘導したりしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は特に設けていない。入りたくないとき希望があったときには、後日入浴していただいたりしている。また、「菖蒲湯」や「ゆず風呂」など季節感を取り入れた入浴に心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はリビングのソファや居室など思い思いの場所で休まれている。夜間は夜更かしの習慣がある方は、眠くなるまで、リビングで職員と話をしたりテレビを見たりして過ごされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の下ごしらえや洗濯物干しやたたむ事は入居者様の役割となっている。また、絵や習字、生け花などの趣味の支援や外へ出かけ花見や季節行事への参加の支援をしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が財布を持っておられ、買い物に出かけたり、受診をされたりする時には自分の財布から支払いをされている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の希望があった場合には、なるべくその日にでかけるようにし、できないときには後日外出するようにしている。また、運動会や祭りなど地域の行事には参加するようにしている。	○	本年度は、業務の見直しを行い、外出支援が行いやすいようにした。また、事業計画にも外出支援を盛り込んでいる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	町外のショッピングセンターへでかけたり、夜間外出したり、母体施設の夏祭りや敬老会にはご家族と参加したりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機を利用し、居室で電話をしたり、ご家族から手紙や贈り物が届いたりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会ができるよう、特に面会時間は定めてない。また、面会時は、居室へご案内し、気兼ねなくゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修会などへ参加したり、身体拘束しないケアに日常的に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上外玄関に施錠をしているが、日中は、チャイムやセンサーを活用するなどして施錠していない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員が入居者様を見守りやすい位置にいるようにし、居室の巡回も頻繁に行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	殺菌消毒剤など危険なものは鍵付きの保管庫に収納している。その他の物は、入居者様の状況に応じて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者様一人ひとりの状況を把握し、ヒヤリはっと報告書を活用し、未然に事故を防止できるように取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て年1回の普通救命講習会の受講や年2回の防災訓練を実施している。また、緊急時マニュアルや急変・事故マニュアルなどを整備している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年二回の避難誘導訓練、消火器訓練を実施している。また、地元消防団へも協力要請している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりうるリスクについては、ヒヤリはっと報告書より把握するようにしており、ご家族の面会時に日頃の様子を話したり、家族と話しどうしたらよいかを共に考えたりしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝・夕にバイタルサインチェックをし、状態変化時や、体調不良の訴えがあった場合は、階下の医院へ連絡し受診している。その情報は随時職員間で共有できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供表を個人ごとに綴じており、職員はいつでも閲覧できるようにしている。また、医師からの指示事項についても情報共有できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便困難な方については医師へ相談し助言を得たり、また、野菜を多く取るよう献立の工夫をしたりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、必要に応じて介助したりして口腔清潔に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックし、記録に残し職員が情報共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年二回感染症の勉強会を行っており、マニュアルや指針を作成し予防・対策に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に清掃し、食材もなるべく買いためしないようにし、在庫を確認しながら調理している。また、2台の冷蔵庫を使い分けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には鉢花や生け花を置いたりしてやわらかい雰囲気になるように心掛けている。	○	今後も階下の医院と協力して取り組んでいきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには季節の鉢花や生け花を飾り、行事や外出時の写真をレイアウトして飾ったり、絵画を飾り季節感を出したり無機質感がないようにしている。また、年二回接遇トレーナーより生活環境について助言、指導していただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル椅子のセットだけでなくテレビを見たりゆっくり話ができるようにソファを置いている。また、廊下にも椅子を置いたり、談話コーナーも設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込んでいただくようにし、自分の部屋として馴染んでいただくようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気をこまめに行うようにし、温度計や入居者様の訴えを基に室温管理している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に応じて、居室の改修や手摺り等の設置を行い安全確保と自立への配慮に取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所表示や自室の目印など、個人に応じた環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには季節の花を植えており、時々眺めておられる様子がある。また、屋上ではお茶会を開いたり、月見をしたりと、活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外出や散歩の時間を増やし、気分転換や楽しみ、ご近所付き合いができるように心掛けている。また、言葉掛けや対応、生活環境について年二回接遇トレーナーを招き助言・指導をいただきながら、年間を通して接遇改善に努めている。健康管理についても、同建物の階下が医院で医師、看護師と連携しながら取り組んでいる。